

はばたき

男と女がともに歩む情報紙 第43号

平成24年10月発行

企画・発行/海老名市市民活動推進課

人権男女共同参画係

TEL: 046-235-4568【直通】

第2回男女共同参画講演会

夫婦脳 ～夫心と妻心



なぜこうも相容れないのか～

11月17日(土) 午前9時30分～午前11時30分
文化会館小ホール (カジダンイクメン写真展同時開催)

「世界一受けたい授業」「さんまのホンマでっか!?TV」に出演!!

講師 くろかわ いほこ 黒川 伊保子 氏 (感性アナリスト、随筆家)

脳科学の見地から「脳の気分」を読み解く感性アナリスト。
独自の感性分析術が注目を浴び、感性研究の第一人者となる。



事前申込制 (保育あり)

夫のこと、妻のこと、愛しているのに伝わらない…どうしてわかってくれないの? そんな風にしたことはありませんか?

すれ違う理由、それは男女の脳に違いがあるからです!

男女脳の違いを理解し、恋に落ちた男女が共に永く生きるためのコツを聞きにきませんか?

また、子どもの脳も男女で違います。男の子と女の子の脳の特性を知って上手に子育て、幸せ脳の作り方、子どものやる気を引き出す方法も必見です。

ぜひ、ご参加ください。

申し込みは、市民活動推進課 人権男女共同参画係
(046-235-4568=直通) へ。

☆右のQRコードでインターネット申し込みができます。

申込 QR コード

携帯電話



スマートフォン



男女共同参画推進員活動報告

今号では、15名の男女共同参画推進員の活動内容をご紹介します。
講演会やサマースクール、街頭アンケートなど様々な活動を行いました！！

～6月29日に実施した男女共同参画講演会から～
ドラマを見て話そう！考えよう！

家政婦のミタ

昨年の人気ドラマ『家政婦のミタ』。父親の不倫が理由でバラバラになった家庭に、家政婦のミタさんがやってくる。家政婦として、食事の支度やアイロンなどを行うと、家族はとても感謝する。そんな場面を上映し、みなさんの意見を聞きながら行った、参加型の講演会。

家事・子育ては、女性がやるべきあたりまえの役割なのではないでしょうか？「家族のあり方を改めて考えてみたい」「親子でも感謝の言葉が必要」等の意見を多数いただきました。

東洋英和女学院大学人間科学部
藤村 久美子教授



～サマースクール～

あの子もこの子もいっしょに遊ぼう！

夏休み期間中に、小学校で開催しているサマースクールに参加しました。
「おとこの子もおんなの子もみんなちがってみんないい」をテーマに、子供たちにも親しみやすい、紙芝居とカルタを使って、男女共同参画について学んでもらいました。紙芝居は、男女共同参画推進員の手作りです！



仲良く楽しく
できました♪



男女共同参画街頭アンケート



100人に聞きました!!

6月28日に、海老名駅自由通路にて、えび~にゃと一緒に街頭アンケートを行いました。今回、行ったのは2択で答える簡単な2つの質問です。

どちらの質問も、正解・不正解というものはありませんが、大きく差が開いた結果となりました。徐々にではありますが、「男は仕事・女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識が変わってきているようです。

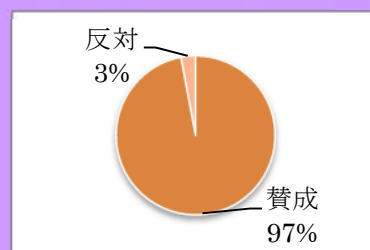
ご協力いただいた、総勢338人の皆様、ありがとうございました。

質問1「女性が働き続けることに賛成ですか？反対ですか？」

A. 賛成328名、反対10名

男性の95%、女性の97%が、女性が働き続けることに賛成を選択していました。しかし、内閣府の調査によると、62%の方が第一子出産前後に離職しているという現状もあります。

再就職や就労継続など、どのような働き方を選んでも、男女がいきいきと働ける職場、そして仕事と家事・育児・介護の両立ができる社会が望まれています。

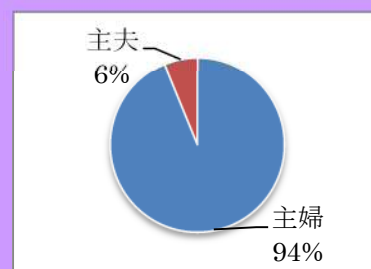


質問2「「専業シュフ」と聞いて、「主婦」と「主夫」どちらの漢字が思い浮かびますか？」

A. 主婦317名、主夫21名

イクメン、男子ごはん、家事男（カジダン）など、男性を家事や育児に巻き込む言葉をよく耳にします。

まだまだ「主夫」を選ばれた方は一握りですが、男性も女性も、いろいろな生き方を選択でき、認められる社会になっていくように男女共同参画を推進していきます。



夫婦揃って男女共同参画の視点に立って活動している料理研究家を紹介します。
—11月に行う「男女共同参画料理講座・夫婦deクッキング」の講師—

海老名郷土料理研究家「福井ご夫妻」

海老名郷土料理OB会を発足し、13年。
月1回の定例会には海老名の食材を使った料理とお菓子類等を作っている。豊富にある海老名の野菜類を生かした料理を、後世に受け継いでもらうために、昔からあるものも大切に、時代の変化に合わせた新しい郷土料理の研究を楽しんでいる。

また、一元氏は魚をメインにした料理も手掛け「これからは、どんな時代でも生きていけるよう、男性も『俺のメシ』が作れるといい。」と持論を持つ。



直子さん・一元さん

最初は、「このエプロンどうするんだい!」とか、魚を触ることすら考え込んでいた生徒も、「失敗しても誰にも迷惑にならないから大丈夫」と声をかけると、安心して包丁を持ち、自信がつき、今では妻に食べさせたいという気持ちから、熱を通した品は自分が手を付ける前に、お土産づくりに一生懸命な様子が見受けられ、変われば変わるものだなあと感心していただけるそうです。

「夫が料理をするには、妻の協力が絶対必要。」

「男性が料理をはじめようと意気込んで、料理講座に入っても、いざ自宅で料理をしようとする、台所をグシャグシャにしてしまう。それを妻が嫌がって、結局男性が料理するのをやめてしまうんですよ。だから、最初は片づけを手伝ってあげたり、優しく見守る妻の協力が不可欠なんです。ただ、男性が一人で全てできるようになるまで、3年はかかってしまうかな。」そう楽しそうに笑って話される、福井ご夫婦。

料理講座の後、リタイアされた夫婦の夕食に、旦那さんがOB会で作ったお土産の料理を囲み、ビールをおいしく飲みながら、楽しい会話の弾む夕食が目には浮かび、そんな夫婦のひとつのひとときの助になっているのかなと、想像しながら、夫婦で会話をしていただけるそうです。11月の講座が楽しみですね。

相談室 から

海老名市では、「女性相談員による女性のための相談」を実施しています。自分自身の生き方、夫婦・家族のこと、夫・恋人からの暴力、セクハラなどについて、相談者が自分らしく生きるために一緒に考えます。

☎ 女性相談ダイヤル 231-2224
受付時間 月～金（祝日を除く）10時から17時まで